

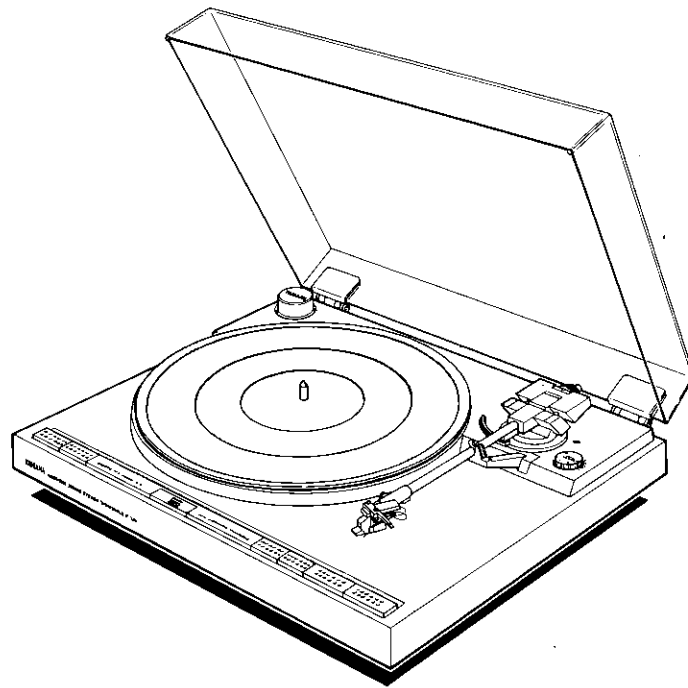


YAMAHA

QUARTZ PLL SERVO D.D.
FULL AUTOMATIC PLAYER

P-701

取扱説明書・保証書



■目次

特長.....	1	アンチスケーティングの調整.....	5
参考仕様.....	1	アンプへの接続/レコード演奏の手順.....	6
各部の名称と機能.....	2	針交換のしかた /	
組み立て図.....	3	カートリッジの取り付け/アームリフターの高さ調整.....	7
ご使用になる前に次のことにご注意ください.....	4	故障と思われるときには.....	8
トーンアームの調整.....	5	サービスのご依頼について.....	9
針圧調整.....	5		

ご使用の前に必ずお読みください。

本書には、最終ページに保証書が添付されていますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーP-701をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

P-701の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

■特長

- プレーヤーの心臓部のモーターに回転精度の極めて高いクォーツPLLダイレクトモーターを採用し、またクォーツPLLでも制御しきれない微妙な負荷変動や回転ムラまで、重量1.0kgの慣性モーメントの大きなターンテーブルで吸収し滑らかな回転を得ています。
- 総高さ110mmあまりの薄型プレーヤーで、そして使いやすい操作パネルや、トーンアームなど人間工学を追求したデザインです。
- 繊細で透明な音を再生するMCカートリッジを搭載しました。MCならではのといわれる高品位の音をお楽しみください。
- 優れたトラッキングアビリティを持ち、構造的に振動に強いストレートアームを採用し、装着されるカートリッジの性能を十分に引き出します。
- キャビネットには、剛性の高いBMC (Bulk Molding Compound) を採用し、スプリング・ゴム複合型インシュレーターの使用と相まって、高いハウリングマージンを得ています。
- 高精度のヤマハ技術によって裏づけされたメカニズムによる安定したフルオートマチックコントロール機構が組み込まれています。

参考仕様

■フォノモーター部

駆動方式	ダイレクトドライブ
モーター	DC4相8極コアレスホールモーター
サーボ形式	クォーツロック
回転数	33- $\frac{1}{3}$ r.p.m.、45r.p.m
ピッチインジケータ	ロックインジケータ
ターンテーブル	
直径	30cm
材質	アルミダイカスト
重量	1.0kg(ゴムシートを含む)
慣性モーメント	120kg \cdot cm ² (ゴムシートを含む)
S/N比	78dB以上 (DIN B (IEC 98A WTD))
ワウ・フラッター	0.015%WRMS(FGダイレクト) 0.025%WRMS(テストレコード法)

■トーンアーム部

形式	ストレートアーム
アーム全長	300mm
アーム有効長	222mm
オーバーハング	16mm
オフセット角	23°
水平トラッキングエラー角	-1°~3°
針圧印加方式	スタティックバランス・ノブ回転方式 1回転0~3g、0.1gステップ
実効質量	11g
適用カートリッジ重量範囲	2.5~9g
アーム初動感度	垂直10mg、水平30mg
アームリフター	オイルダンブ式キューイング

アンチスケーティング	回転操作型スプリングレバー式
ヘッドシェル(指かけ、ビス、ナットを含む)	
重量	3.2g

■カートリッジ

形式	MC型カートリッジ
出力電圧	0.3mV(1kHz3.54cm/sec水平)
適正針圧	1.7g \pm 0.3g
交換針	N-7050
重量	4.3g

■キャビネット

外装	BMC(Bulk Molding Compound)
インシュレーター	スプリング、ゴム複合型

■オート機能

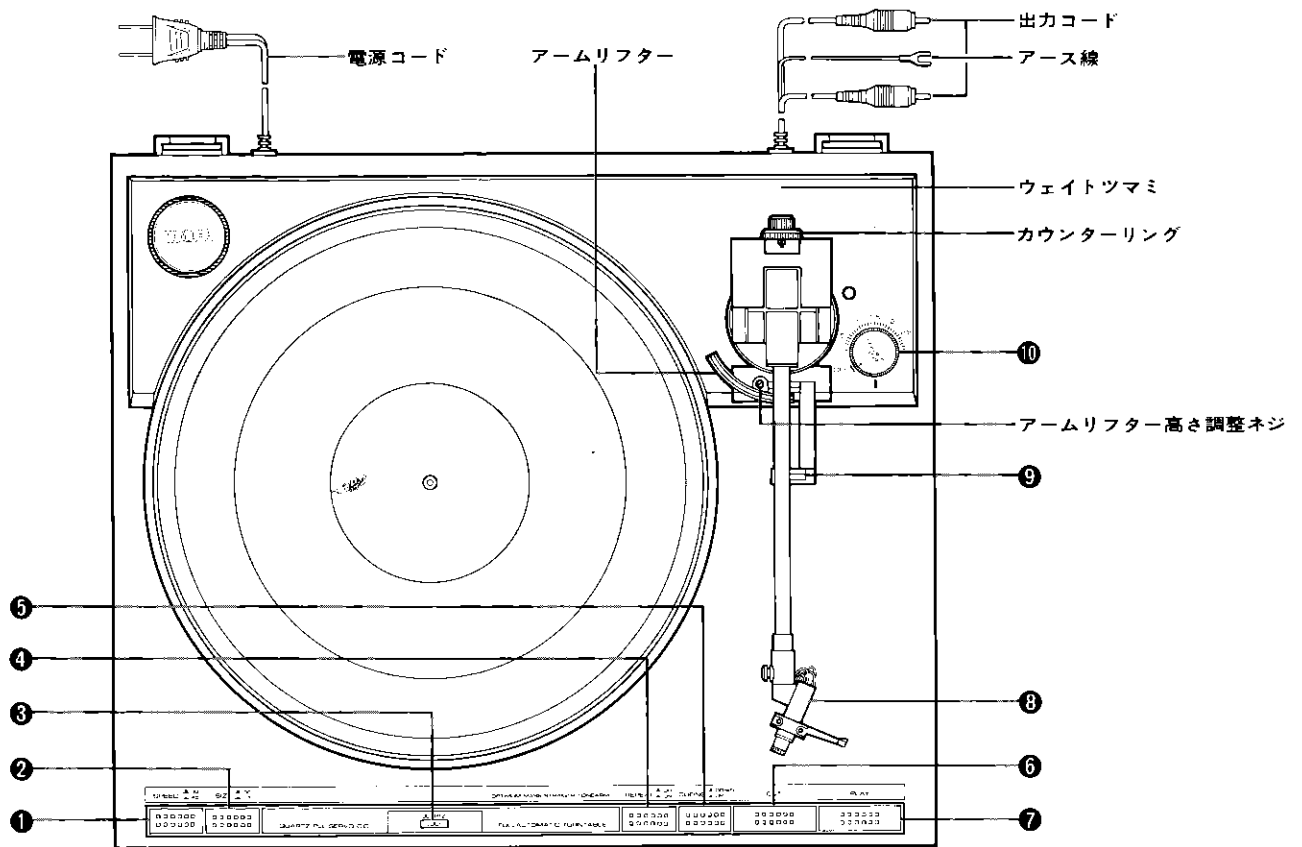
	オートリードイン(17cm、30cm)
	オートリターン
	オートリピート
	オートカット

■総合

定格電源電圧	AC100V
定格電源周波数	50/60Hz
消費電力	6W
外形寸法(W \times H \times D)	435 \times 111 \times 378mm
総重量	6.2kg

※仕様および外観は予告なく変更することがございます。

各部の名称と機能



① SPEED(スピード)スイッチ

回転数切り換えスイッチです。

- 回転数33 $\frac{1}{3}$ r.p.m.のレコードを演奏するときは「**■** 33” (スイッチが出た状態)にします。
- 回転数45r.p.m.のレコードを演奏するときは「**■** 45” (スイッチを押した状態)にします。

② SIZE(レコードサイズ)スイッチ

使用するレコードに合わせて押してください。30cmLP盤では30”**■** EP盤などでは17”**■**です。

③ LOCK(ロック)インジケター

モーター(ターンテーブル)の回転数がクォーツPLLにより定常回転に達し、ロックされたことを確認できます。

④ REPEAT(リピート)スイッチ

同じレコードを繰り返して聴く場合にリピートスイッチを押しておきます。

⑤ CUEING(キューイング)スイッチ

レコード演奏を一時中止したいときや、曲の途中へ降りしたい場合など、針先(トーンアーム)をレコード面から滑らかに上げ下げさせるスイッチです。

UP”**■**”へセットすると針先は上がり、DOWN”**■**”へセットすると滑らかにレコード面に降ります。

⑥ CUT(カット)スイッチ

レコード演奏を途中でやめたいとき、このスイッチを押しますと、トーンアームが上がりアームレストに戻り、モーターの回転も止まります。

⑦ PLAY(プレイ)スイッチ

ターンテーブルにレコードを載せ、このスイッチを押すとオートプレイが開始されます。

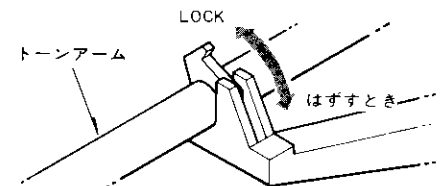
キューイングスイッチがUP”**■**”の状態にある場合は、針先が降りませんので、オートプレイ時は必ずDOWN”**■**”の状態にしてください。

⑧ ヘッドシェルとカートリッジ

MC形カートリッジを装着した、ヘッドシェルです。トーンアームパイプに差し込むときにはコネクターを痛めないようにまっすぐ静かに押し込んでください。

⑨ アームレスト/アームロック

プレーヤーを使わないとき、また運搬するときはアームレストにトーンアームを戻し、ロックしてください。



⑩ ANTI-SKATING(アンチスケーティング)

アンチスケーティングを調整します。

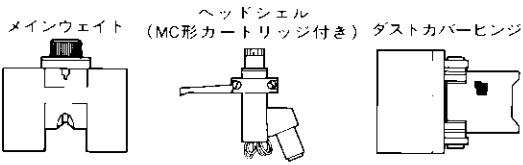
加える針圧と同じ目盛りにセットします。

(5 ページを参照ください。)

組み立て図

付属品

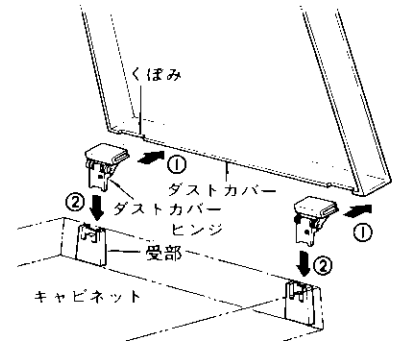
付属品を確認してください。
EPアダプター/
レコードクランパー



ヘッドシェル
メインウェイト (MC形カートリッジ付き) ダストカバーヒンジ

ダストカバーの取り付け

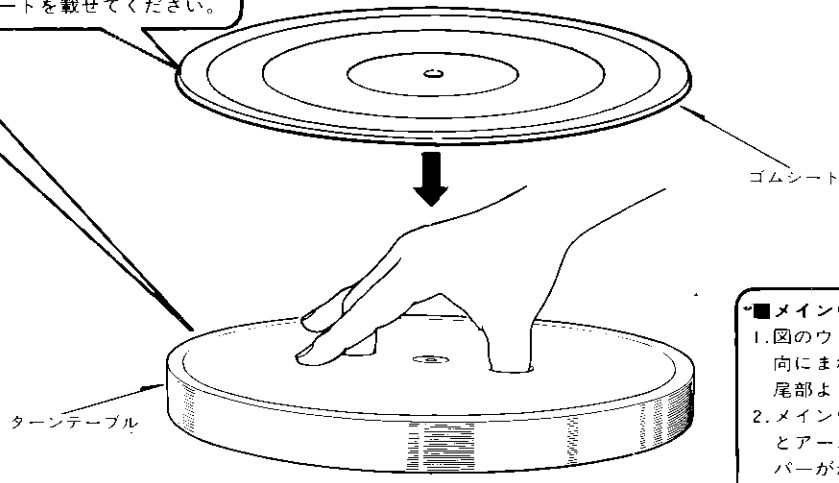
1. ダストカバーヒンジを図のようにダストカバー後面2ヶ所のくぼみ合わせ、それぞれ差し込んでください。(矢印①)
2. 次に、キャビネット後面左右の受部に左右同時に差し込みます。(矢印②)
3. ダストカバーは着脱可能です。取りはずす場合は逆に行なってください。



■ターンテーブルの取り付け

1. ターンテーブルの2つの穴に指を入れて、センターシャフトに静かに差し込んでください。
(ターンテーブルを回転させたとき、ターンテーブル周辺が上下に振れることのないようしっかり差し込んでください。)
2. ターンテーブルの上にゴムシートを載せてください。

組み立ての前に電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。組み立てが全部終わってから電源プラグをコンセントに差し込んでください。

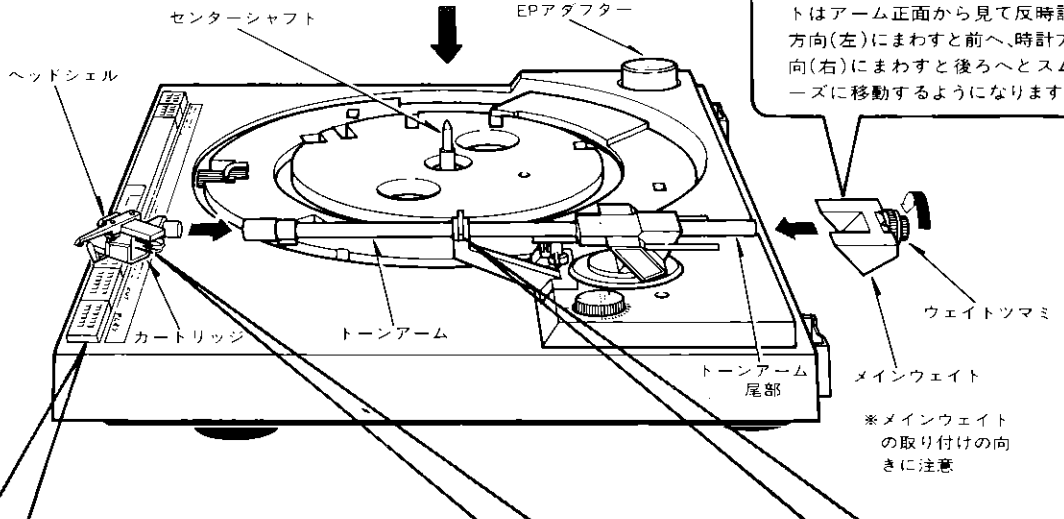


ターンテーブル

ゴムシート

■メインウェイトの取り付け

1. 図のウェイトツマミを矢印の方向にまわしながらトーンアーム尾部より押し込みます。
2. メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストップがかみ合い、メインウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)にまわすと前へ、時計方向(右)にまわすと後ろへとスムーズに移動するようになります。



センターシャフト

EPアダプター

ヘッドシェル

カートリッジ

トーンアーム

トーンアーム
尾部

ウェイトツマミ

メインウェイト

※メインウェイトの取り付けの向きに注意

※組み立てが終わりましたらレコードを置きプレイおよびカット動作をしてください。(動作が終了状態となり、電源を入れた際、誤まってゴムシートの上にカートリッジが降りることを防止できます。)

■ヘッドシェルの取り付け

カートリッジの付いたヘッドシェルを、シェルのロックネジをゆるめてアーム先端へ差し込み、ロックネジを締め固定します。このときシェル内部のピン4本を痛めないようにまっすぐにして軽く押し込んでください。

※トーンアームは輸送用のビニタイで固定されていますので、トーンアーム組み立て後ビニタイを取りはずしてください。

ご使用になる前に次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所（周囲温度40℃以上）ではキャビネットの変質変形等の原因になります。
- 温度の特に低い場所（周囲温度-5℃以下）でのご使用はオイルなどの凝固により回転ムラ等の原因になりますので避けてください。
- 湿気の多い場所（湿度90%以上）では金属部分にサビが生じたり故障の原因になることがあります。
- ホコリの多い場所ではレコードや針先等がよごれたり、雑音の発生等の原因になります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。



セットのお手入れには

キャビネットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

また本機にレコードスプレーを吹きかけることのないよう充分ご注意ください。お手入れは、必ず柔らかい布でからぶきしてください。



電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからは必ずときは、必ずプラグを持って抜いてください。

※本機は国内電源AC100V±10V、50/60Hzでお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できません。



取り扱いはいねいに

物をぶつかけたり、落したりの乱暴な取扱いは製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取り扱いください。



古いレコード針は使わない

針先の寿命は使用するレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200~300時間使用したら交換してください。針先が摩耗すると音が歪んだり、ピリついたりして、レコードを痛める原因になります。



アンプから離して

接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、ハム音の発生等の原因になりますのでアンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。又出力コードも他の電源から遠ざけるようにしてください。



組み立てるときには

本機はフルオートマチックのプレーヤーですから組み立て時にはこの取扱説明書をよく読んで、正しい手順で行なってください。また、電源プラグがコンセントから抜けた状態を確認してから行ってください。



振動のない静かな所を

ハウリングや針とびの原因になりますので振動の多い場所やスピーカーシステムの近くには置かないでください。台もしっかりしたものを選んでください。



水平に保つこと

プレーヤーの水平が保たれていませんと、回転速度やトーンアームの動きに悪影響を与えます。必ず水平に設置してご使用ください。



落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源のプラグを抜きとってください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことになりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。




もう一度調べてください

故障かなと思ったら、まずP.8の「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに保管してください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

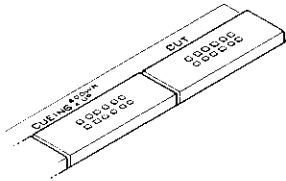
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

トーンアームの調整

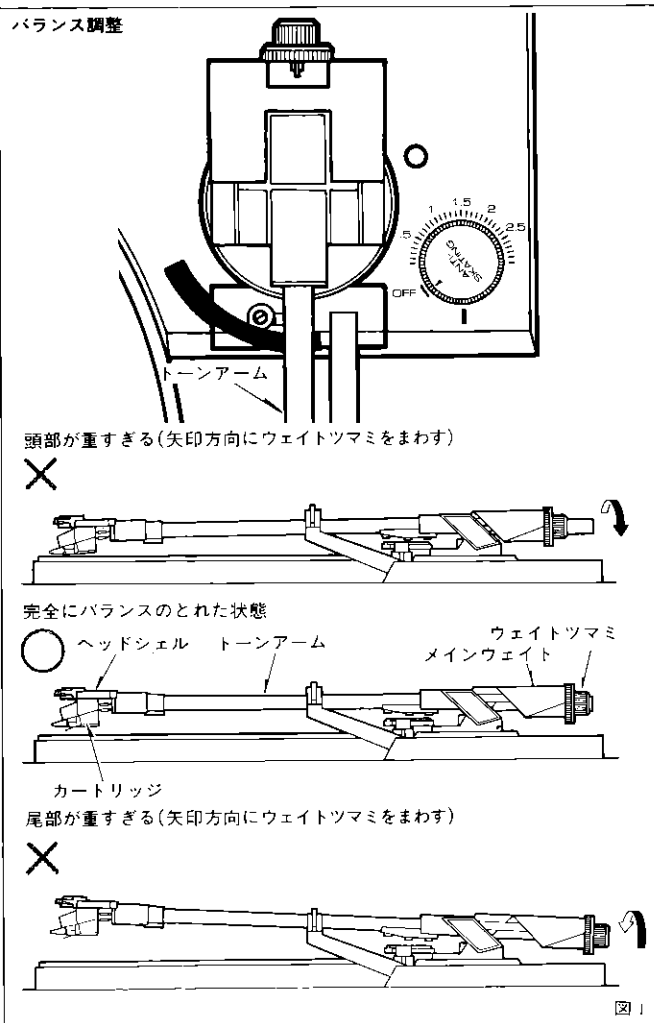
① トーンアームのバランス調整

ターンテーブル、カートリッジの取り付けとトーンアームの組み立てが終わりましたら、電源を入れてCUTスイッチを押し、オート動作を終了させておきます。バランス調整のときは、一時電源プラグをコンセントから抜き、アンチスケーティングを“OFF”に合わせておいてください。

1. キューイングスイッチをDOWN“■”にセット（トーンアームダウンの状態）して、アームリフターを下げおきます。

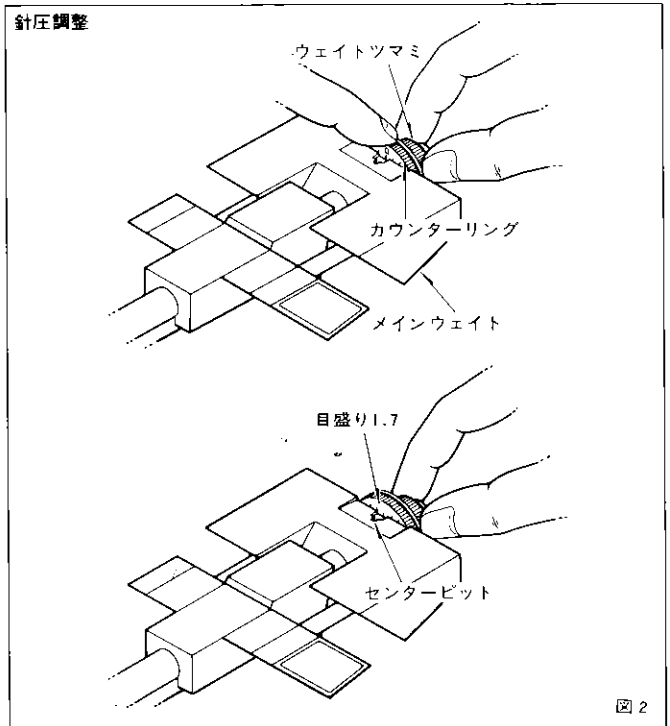


2. カートリッジの針カバーを上げ（取りはずしのできる針カバーははずしてください。）アームロックをはずしてトーンアームをアームレストから引き出します。
3. フィンガーフックから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。
4. トーンアームが完全に水平になるように図1を参考にして、メインウェイトを前後させ調整します。



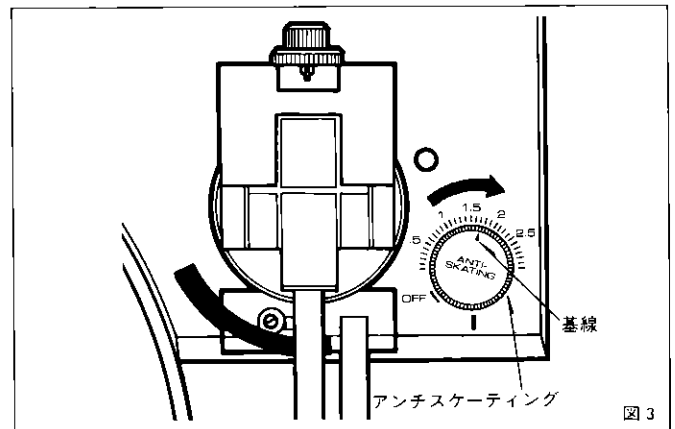
② 針圧調整

1. バランスのとれた位置でウェイトツマミが動かないようにし、ウェイトツマミ前部のカウンターリングだけを回して数字の“0”をメインウェイトのセンターピットに合わせます。
2. ウェイトツマミを図2のように回しますとカウンターリングも一緒に回りますので、カウンターリングの数字1.7の位置にメインウェイトのセンターピットに合わせます。以上の操作でトーンアームの調整はできたわけですが、カートリッジを交換したり、誤ってウェイトツマミを動かした場合はバランスの調整からやり直して正しい針圧をとり直してください。



③ アンチスケーティングの調整

付属のカートリッジの適正針圧が1.7gですから、図3のようにアンチスケーティングのつまみをゆっくり右にまわしてゆき、“1.7”の目盛りに基線(▲)を合わせてください。

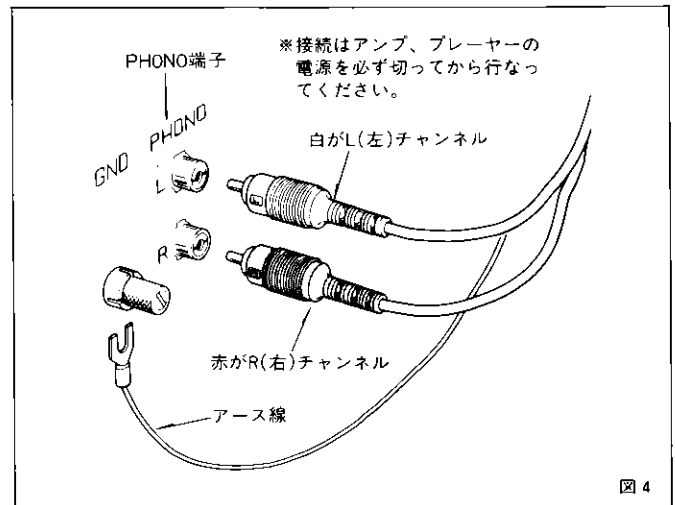


アンプへの接続／レコード演奏の手順

■アンプへの接続

1. キャビネット背面から出ている出力コードを、アンプのPHONO端子に接続します。このとき、L・Rを間違えないようにしてください。白がL(左)チャンネルで、赤がR(右)チャンネルです。(図4)
2. 出力コードから出ている黒のアース線を、アンプのGND端子へ接続してください。(図4)
3. 電源プラグをACコンセントか、アンプの予備電源コンセントに接続してください。
本機の消費電力は6Wです。

※本機は、MCカートリッジを搭載していますので、アンプのPHONOスイッチはMCの位置にセットしてご使用ください。



■レコード演奏の手順

本機の組み立てと調整、アンプへの接続が終わりましたら、次の順序でレコード演奏をお楽しみください。

① 接続したアンプを動作状態にします。

アンプの電源をONにし、FUNCTION(入力切り換え)スイッチをPHONOの位置、PHONOスイッチはMCの位置にセットします。
アンプのボリュームは絞っておいてください。



② 演奏するレコードを静かにターンテーブルに載せてください。

45回転EPレコード(ドーナツ盤)は、付属のEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込んでください。LPレコードのときには、レコードクランプとしても使用できます。



③ ターンテーブルに載せたレコードのサイズに合わせて、レコードサイズスイッチをセットします。



④ ターンテーブルに載せたレコードの回転数に合わせて、スピードスイッチをセットします。



⑤ キューイングスイッチをDOWN(リフターダウンの状態)にしておきます。



⑥ カートリッジの針カバーを上げます。



⑦ アームレストのロックをはずし、プレイスイッチを押すとターンテーブルが回転し自動的に動作して演奏を始めます。

※針がレコードに降りるまではアンプのボリュームを絞っておいてください。



⑧ レコード演奏

アンプの音量・音質をお好みに調節してお聴きください。



⑨ レコード演奏が終わるとトーンアームがアップし、アームレストに戻ります。ターンテーブルの回転も止まります。

●途中で演奏をやめたい場合は、カットスイッチを押してください。トーンアームはアップしアームレストに戻り、ターンテーブルの回転が止まります。

●演奏を一時中止したい場合は、キューイングスイッチをUP(■)にしてください。

●リピートスイッチを押しておくと、同じレコード演奏を繰り返します。

※リピートスイッチが押された状態で、カットスイッチを押した場合、アームは1度アームレストに戻りますが、また演奏が開始されます。カットする場合は、先にリピートスイッチをもう1度押して解除してからカットスイッチを押してください。

針交換のしかた/カートリッジの取り付け/アームリフターの高さ調整

■針交換のしかた(付属カートリッジ)

針交換は図5のように矢印方向に針部を引き抜き、取り付けは逆に矢印とは反対方向から差し込みます。交換針はN-7050をご使用ください。

針の交換時期は200~300時間使用後です。レコードを痛めないためにも早めに交換するようにしてください。

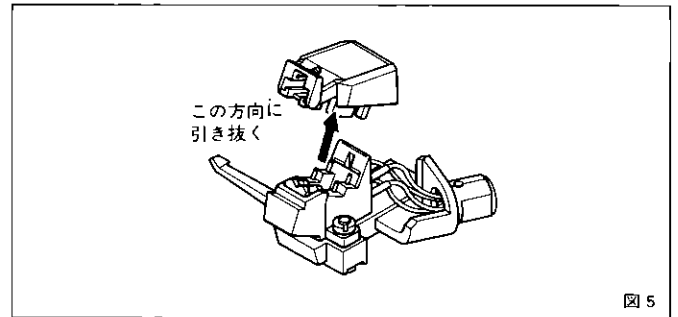
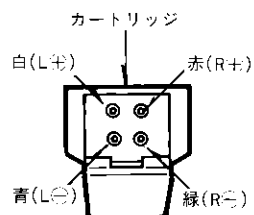
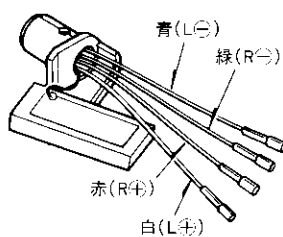


図5

1. カートリッジの取り付け

本機にはカートリッジMC-705が付属していますが、このほかに自重 2.5~9 g のカートリッジを装着することができます。

1. ヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに正しく接続してください。
2. カートリッジをネジで図の様にヘッドシェルに仮止めします。
3. ゴムシートを裏返してのせます。ゴムシート裏面にオーバーハング確認用にラインゲージがありますので、ラインゲージに針先を合わせ、オーバーハングを合わせた後、カートリッジを固定します。



2. アームリフターの高さ調整

※出荷の際、調整されておりますので、通常は調整の必要はありません。

カートリッジなど交換して、アームリフターの高さをかえたい場合のみ、⊖ドライバーで、アームリフターの高さ調整ネジを調整してください。

1. 電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。
2. キューイングスイッチを、UP にセットし、トーンアームをレコード盤上へ移動し、図7のように針先とレコード盤の距離が約6 mmになるようにアームリフター高さ調整ネジを調整してください。

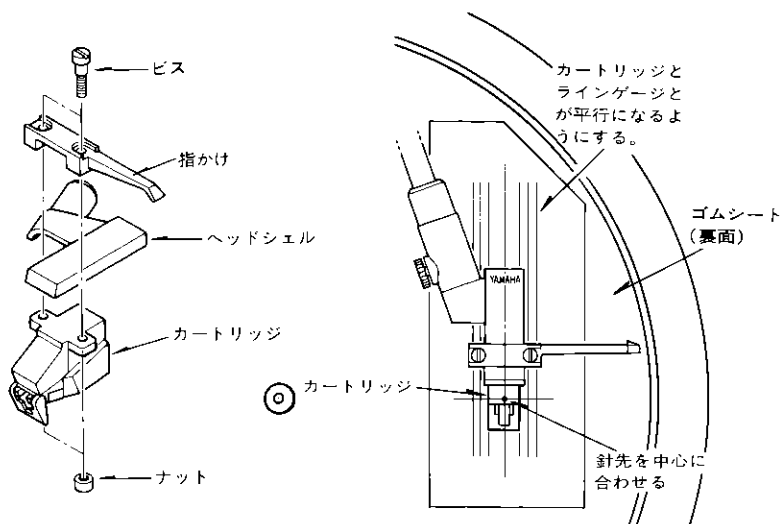
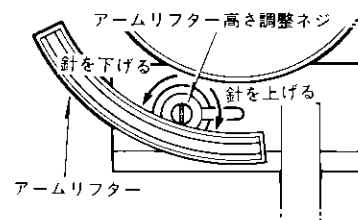


図6

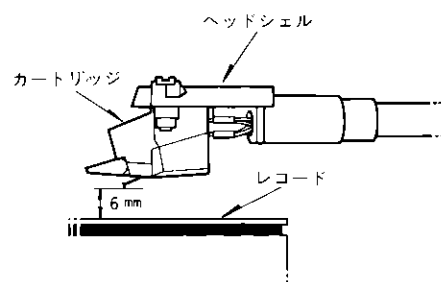


図7

故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
PLAY(プレイ)スイッチを押してもターンテーブルが回転しない	電源コードがACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込まれていない	ACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込み直してください
カートリッジを交換したときなど(ゼロ)バランスがとれない	カートリッジが重いか、または軽すぎる	カートリッジ重量適用範囲は2.5～9 gです。範囲内であればウェイトツマミを回して再調整してください
針先をレコード面に降ろしても音が出ない、または小さい	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください
	MCポジションになっていない	PHONOスイッチをMCにしてください
カートリッジの腹がレコード面に接触する	針圧が重すぎる	適正針圧に再調整してください
再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”、“パチ、パチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水平に設置し直してください
	針先にホコリなどが付着している	針先を針先掃除用刷毛などできれいにしてください
	針先が摩耗している	針交換してください(7ページを参照ください)
	レコード自体が痛んでいたたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください レコードのホコリやゴミを拭きとってください
	針圧が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください
再生音がふるえたり、ハウリング(ポワーンという音)を起こして聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください (特に部屋のコーナーは避けてください)
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください
	プレーヤーのアース線が接続不良	アース線をアンプのアース端子に接続してください。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(8ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点への持ち込み修理

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

修理受付および修理品お預り窓口

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新箕屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7(高松店内) TEL (0878) 51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区範囲町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 36-0249
浜松電音サービスセンター	〒430 浜松市東伊場2-13-12 TEL (0534) 56-9211

本 社

営業技術課電音サービスセンター 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
高松店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL(0878)51-7777
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6113
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL(0222)22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)244-3743
浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4116
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4077
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。